

# 障がいのある子どもたちのコミュニケーションについて・身体についての学習会と支援者向け学習会

特定非営利活動法人 えんぱわめんと堺 / E S  
〒599-8244 大阪府堺市中区上之 8 0 1 - 5

## 助成事業の概要

障がいのある子どもが、学校や地域でいじめや疎外される状況が起きている。障がいのある子自身が自分を大切にする方法を学び、自尊感情を育むことを目的とする。そのために色々なおとなの支援が不可欠であるため、障がい児・者についての正しい理解を地域へ広めて行く。

●障がい児対象ワークショップ：【6回】3月25日（水）チャレンジ・クラブ2回、3月26日（木）NPO 法人ぴーす2回、3月28日（土）放課後等デイパピスポ、3月30日（月）放課後等デイサービスリーふ 内容：「コミュニケーション」相手に自分の気持ちをどのように伝えるか、寸劇で場面を設定し練習をする。「大切なからだについて」自分のからだ、人を好きになる心について学ぶ。誰かが嫌な触り方をしてきた場面を寸劇で設定し練習する。「アンガーマネジメント」自己表現をする、怒りを発散する方法を実際に体験する。

●学習会【2回】○講師：岡勇樹さん（NPO 法人 Ubdobe）平成 27 年 1 月 31 日（土）『日々のくらしに新鮮な体験を、障がいのある子どもの「できる」を前向きにとらえる支援について』

○講師：伊丹昌一さん（梅花女子大学）平成 27 年 2 月 15 日（日）『子どももおとなも楽しく学ぶソーシャルスキルトレーニング～事例から考える、発達障がいのある子どものよりよい人づきあいのコツ～』

## 事業の成果

（障がいのある子ども）

・始まる時に、イライラした気持ちだった子どもが他の子どもとコミュニケーションがうまく取れないで、相手に嫌な事を言ったり物を投げていた子が、ワークショップの終わりごろには、自分がしたことを謝り、他の子どもと仲良くなれるように声をかけていた。

・中学生女子。インターネットから得た情報を教科書のようにして、告白をしたり、つきあうことをしていた子。周りのおとなが伝えても危険な事、相手に嫌な事をしていることが分からなくて、話を聞かなくて、いつか事件に巻き込まれるのではないか、いつか性被害にあうのではないかと周りのおとなは心配していたが、身体について正しい知識を知り、「インターネットで言っていたことは違う時もあるんだ」と、話していた。第 3 者のおとなが伝えることの効果、他の子どもたちと一緒に話を聞くことで、色々な意見を聞くことで学ぶことができた。

・人前で服を脱いで裸になる子がプライベートなことについて学び、保護者とその話を共有できたので、継続して支援ができると、保護者の方が喜んでいた。（保護者の方より、どのように伝えたらよいかわからないと、話があった）

・感情のコントロール いつも、物を壊したり、人を傷つけて怒られている子が、他の子どももおとなもみんな、怒ることあるんだよ！怒ってもいいんだよ！と伝えたら「僕（私）はいつも（おとなから）怒られてる・・・」と打ち明けてくれた。

他人や自分、物を傷つけないで、怒りの気持ちを発散できるように、具体的な場所を伝え・発散の仕方を体験したことで、落ち着くことができるようになった。

（おとな）

- ・障がいについて理解し、支援するおとなが増えた。
- ・保護者の方たちがつながり、お互いに子育ての不安を話しができた。

## 成果の広報・公表

### ●障がい児対象ワークショップ

障がいのある子どもたちが「僕は（私は）、できたよ」と自信をもって保護者の方へ話をしました。

保護者の方へ、『友達との関係で悩んでいる子どもたちが、それぞれの課題に関して、寸劇で子どもが自信をもって「できた!」ということを体験できたことは、次へつながる一歩になっている』と伝えています。失敗することもあるが、この成功体験、できた体験を糧に次は、できるよと支援を継続していくことが大切と伝え、保護者からは、友人関係のトラブルの話、「いや」と（言えない）伝えないから嫌な事をされている話などがあり、今回子どもたちが体験できてよかった、と意見をいただきました。

●学習会—岡さんの学習会感想『受信力が大切。障がいによっては、発信しているのに支援者が受け止められていないこともある。色々な事を想定し、色々な人がその人に関わり、その人が「その人」らしく生きていくことを支援できるようにしたい』

伊丹さんの学習会感想『具体的な SST を教えてもらい早速現場で使っていきたい（学校関係者）』  
『起こりもしない悪い未来のことばかり考えない、どんな子どもでも必ず伸びるといふ伊丹さんの言

葉で元気をもらいました（保護者）』

## 今後の展開

障がいのある子どもたちの課題は様々で、保護者や主催者から、一度体験したからコミュニケーションが身につくということではないので繰り返し体験できるようにしたい、特に、身体についての話は、どのように伝えたらよいか分からなく、難しいので、第 3 者である当団体が、子どもたちに正しい情報、方法を伝えてほしい、その方が、子どもたちも話を聞きやすいし、支援するおとなも前に教えてもらったでしょう〜と話をしやすくなるので、今後も、年齢別・課題別で、定期的・継続的に障がい児対象ワークショップをおこなっていききたい。

保護者や支援者向けの学習会開催後に、もっと話を聞きたい、次はこのテーマで話を聞きたいという意見をいただいている。自主開催をした場合、参加費用が高くなってしまい、障がいの子どもの対応に本当に困っている保護者、支援者が来れないことが無いように、できれば、助成金をいただいて、多くの方（特に初めて参加する方）が来れるように、努力していききたい。